

(年度様式2) プロジェクト課題計画

令和3年度継続課題

課題No. 2			
課題名 地域の特徴を活かした「吟のいろは」の産地化の実現			
計画期間	令和2年度～令和3年度		
対象名及び対象者数	松山町酒米研究会（「吟のいろは」生産者8名）		
課題の背景	<p>・「吟のいろは」は、古川農業試験場で育成された品種で、大粒で心白発現率が高い特性を持つ酒造好品種であり、令和2年2月に品種登録申請公表され、令和2年度には産地品種銘柄の設定がなされる見通しである。</p> <p>・大崎市では、世界農業遺産認定を活かした農業の展開を明確化するため、世界農業遺産ブランド認証制度に取り組んでいる。地元企業、地域農業、関係機関が一体となってその土地でしかできない酒米及び日本酒の生産を支援していきたい意向を持っている。</p> <p>・松山町酒米研究会は、地元酒蔵と結び、第三者認証によるJAS有機栽培や特別栽培による酒米の生産に取り組んでいる。求められる原料米の品質を確保するため、土づくりや肥培管理等について研究を重ねており、毎年開催する酒米コンクール等で会員相互による技術の切磋を図っている。</p> <p>・松山町酒米研究会では、「吟のいろは」に大きな期待を寄せており、新品種の導入を契機に、酒米の産地として地域を盛り上げたいと考えている。</p> <p>・「吟のいろは」は、新しい品種であることから、良質な原料米を提供するため、早期に栽培技術を習得する必要がある。また、現段階では県の奨励品種となっていないため、生産を継続するためには、必要な種子を自ら確保する必要がある。</p> <p>（前年度までの実施状況と今後の改善方向）</p> <p>・栽培管理技術早期確立に向け、展示ほを設置し、データの収集を行った。目標収量構成要素を仮設定し、現時点で理想と考えられる肥培管理を指導した展示ほについては、全量特等格付された。残りはすべて1等格付となったが、従来通り多収を狙った肥培管理を実施した生産者については、整歩歩合が低く、形質的に劣る傾向が現れた。令和3年度は、収集したデータを元に生育指標を仮設定し、検証を行うことから栽培管理をことごとくまとめている。</p> <p>・県酒造組合及び大崎管内を中心に蔵元を訪問し、「吟のいろは」に関する意見聴取を行った。蔵元の状況を把握し、生産者に伝達することにより、醸造に適した品質の確保に向けた意識の統一と向上が図られた。</p> <p>・日本酒全体の需要が低迷し、酒造好適米を減産せざるを得ない状況下において、令和3年度「吟のいろは」の需要は微増の見通しである。コロナ禍の景況感悪化により、実需者が低価格志向となっている。今後も実需者との情報交換を継続していく必要がある。</p> <p>・県酒造組合を通じた令和3年度の要望数量は850俵となっており、当初見込（1,350俵）よりも減少したため、種子に余裕が生じている。</p>		
期待される対象の変化	<p>・「吟のいろは」の栽培技術を習得し、高品質な原料米を生産する。</p> <p>・産地として生産振興を図るため、必要な種子を確保する。</p>		
県実施方針上の関連項目	<p>1-(1) 先進的技術に取り組む経営体の育成・支援</p> <p>2-(2) 地域農業の構造改革に向けた取組に対する支援</p>		
地域基本方針上の関連項目	<p>2-(1) 先進的技術に取り組む経営体の育成・支援</p> <p>3-(2) 地域農業の構造改革に向けた支援</p>		
担当チーム員	高橋佳, 三上雄史, 飯沼千史, 鹿野弘, 大友慎次	担当班及び進行管理責任担当者	先進技術班 飯沼千史
令和3年度			
成果指標	<p>定性的目標</p> <p>・「吟のいろは」の栽培技術を習得し、高品質な原料米を生産する。</p> <p>・産地として生産振興を図るため、必要な種子を確保する。</p> <p>定量的数値目標 (実績9.1%)</p> <p>農産物検査における格付「特上」「特等」の割合 0% (R1) → 10% (R2) → 25% (R3)</p>		
活動指標	<p>定量的数値指標 (合計総現地活動日数 66日)</p> <p>活動事項</p> <p>(1) 栽培管理技術確立支援 40日 (2) 種子確保に向けた支援 8日</p> <p>(3) 関係機関と連携した産地化支援 18日</p>		
関係機関の主な役割分担項目	<p>・JA新みやぎみどりの地区本部（生産販売支援）</p> <p>・大崎市（プロモーション, 世界農業遺産認証制度等）</p> <p>・古川農業試験場（栽培管理技術確立支援）</p> <p>・産業技術総合センター（醸造技術支援）</p>		
関連事業名と役割			

(内部資料)

※以下の部分は印刷製本しない内部資料とする。(計画承認のために農業振興課へは提出)

活動事項	月次活動計画											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
栽培管理技術確立支援	育苗巡回・指導	展示ほ設置	生育調査・現地指導	生育調査・現地指導	ほ場巡回・現地指導	成熟期調査・収穫期検討	坪刈調査	収量・品質調査, 成績とりまとめ	実績検討会		栽培暦申し合わせ	播種準備指導
(40日)	1日×2人(2日)	1日×2人(2日)	3日×2人(6日)	3日×2人(6日)	2日×2人(4日)	2日×2人(4日)	1日×2人(2日)	4日×2人(8日)	1日×2人(2日)		1日×2人(2日)	1日×2人(2日)
種子確保に向けた支援	種子確保打合せ			採種ほ視察		採種調査視察					種子確保打合せ	
(8日)	1日×2人(2日)			1日×2人(2日)		1日×2人(2日)					1日×2人(2日)	
関係機関と連携した産地化支援	関係機関との情報交換	酒造組合との情報交換	蔵元との情報交換		蔵元との情報交換	現地視察・交流会					実績・作付検討, 新酒お披露目会	
(18日)	1日×2人(2日)	1日×2人(2日)	2日×2人(4日)		2日×2人(4日)	1日×2人(2日)					2日×2人(4日)	

	年度別成果	
	(成果指標における定性的, 定量的目標の達成状況に係る内容を記載する。)	
令和2年度	<p>・栽培管理技術確立に向け、展示ほを設置し、肥培管理について細かく指導を行った。出荷総数の9.1%が特等格付となり、残りもすべて1等格付となった。</p> <p>・県酒造組合及び大崎管内を中心に蔵元を訪問し、意見聴取を行った。蔵元の状況を把握し、生産者に伝達することにより、意識の統一と向上が図られた。また、現地視察・交流会を開催することにより、生産者と実需者との交流が図られた。</p>	
令和3年度		

(年度様式2) プロジェクト課題計画

令和3年度継続課題

課題No. 3			
課題名 持続的な生産へ向けたこねぎ栽培技術の向上 (スマート農業関連課題)			
計画期間	令和2年度～令和3年度		
対象名及び対象者数	JA新みやぎ仙台小ねぎ部会 (38人)		
課題の背景	<p>・JA新みやぎ仙台小ねぎ部会は、部会員38人で17.3ha (R1) を作付けしており、販売額は約4億円(H30年)を超え、JA新みやぎみどりの地区で販売額が最大を誇る園芸品目である。令和元年度の平均販売収量は2.7t/10aで、令和2年度目標は3.2t/10aとしている。</p> <p>・涌谷町では、こねぎを涌谷地域農業再生協議会の「涌谷地域水田農業ビジョン」(H31) の中では、施設園芸の需要拡大が今後も見込まれる優良農産物に定め、「涌谷町6次産業化・地産地消推進戦略」(H30.11月) の中では、こねぎを重点的に活用を図るべき農産物と位置づけている。</p> <p>・仙台小ねぎ部会では、継続的に土壌対策などの基礎的な栽培技術の向上を図っており、毎年収量や品質の成績優秀者には表彰を行うなど部会全体で熱心にこねぎ生産に取り組んでいる。表彰受賞者等の熟練生産者の栽培技術手法をモデル化し部会全体へ周知を図ることで、さらなる栽培技術の向上の一助とし、安定生産が期待される。</p> <p>・土壌病害である萎凋病の発生がみられ、収量低下の要因となっている(販売重量年次対価475t (H28), 467t (H29), 460t(H30))。萎凋病対策では土壌消毒を実施しているが、ほ場条件等で効果に差が見られていることもあり、より効果的な対策が求められている。(前年度までの実施状況と今後の改善方向)</p> <p>・令和2年度では、「栽培技術の見える化」として熟練生産者の栽培技術を記録・データ化し、部会員の栽培技術向上へ向けたモデル指標の検討を行った。また、病害虫一覽や防除薬剤リストを作成・配布し、生産者が早期に防除対策に取り組めたほか、活動の中で、収量向上のためには、萎凋病対策のほか適切な灌水量の確保、土壌物理性の改善等が必要であると明らかとなり、改善の取り組みを実施している。</p> <p>・令和3年度では、前年度取り組んだ「栽培技術の見える化」について、継続してデータ測定等を実施し、モデル指標化を検討する。また、巡回等を通じて病害虫対策支援のほか、灌水状況や土壌物理性改善のためのチェックマニュアル作成等を行い、収量向上へ向けて、個々の生産者の課題改善の取り組みをすすめる。</p>		
期待される対象の変化	<p>・熟練生産者の水管理やハウス内環境のデータ測定・解析により、栽培管理技術が見える化され効率的に高品質・安定生産ができるようになる。</p> <p>・病害虫防除及び土壌管理の基礎技術向上がなされ、こねぎの反収が向上する。</p>		
県実施方針上の関連項目			
地域基本方針上の関連項目			
担当チーム員	菊地友佳里, 伊藤博祐, 高橋真樹子, 鈴木望未, 飯沼千史	担当班及び進行管理責任担当者	先進技術班 飯沼千史
令和3年度			
成果指標	<p>定性的目標</p> <p>・熟練生産者の水管理やハウス内環境のデータ測定・解析により、栽培管理技術が見える化され効率的に高品質・安定生産ができるようになる。</p> <p>・病害虫防除及び土壌管理の基礎技術向上がなされ、こねぎの反収が向上する</p>		
	<p>定量的数値目標 (実績2.7t/10a)</p> <p>販売数量 2.7t/10a (R1) →3.2t/10a (R2) →3.4t/10a (R3)</p>		
活動指標	<p>定量的数値指標 (合計総現地活動日数)</p>		
	活動事項		
	(1)栽培技術の見える化による安定生産技術向上	49日	
	(2)病害虫・土壌環境改善対策等による基礎技術向上支援	72日	
関係機関の主な役割分担項目			
JA新みやぎみどりの地区本部 (栽培及び販売支援), 農業・園芸総合研究所 (栽培技術及び病害対策支援)			
関連事業名と役割			
平成29年度園芸産地戦略加速化プロジェクト (県単), 平成30年度産地発展促進事業 (県単), 農業次世代人材投資事業			

〈内部資料〉

※以下の部分は印刷製本しない内部資料とする。(計画承認のために農業振興課へは提出)

活動事項	月次活動計画											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
(1)栽培技術の見える化による安定生産技術向上 (49日)	データ測定打ち合わせ・調査ほ設置 2日×2人	データ測定・生育調査 (1作目) 3日×2人	データ測定・生育調査 (1作目) 3日×2人	データ測定・生育調査 (2作目) 3日×2人	データ測定・生育調査 (2作目) 3日×2人	データ測定・生育調査 (2作目) 3日×2人	データ測定・生育調査 (2作目) 3日×2人	生産者との勉強会 1日×3人		全体報告会 1日×3人	部会通常総会 (成果報告) 1日×3人	
(2)病害虫・土壌環境改善対策等による基礎技術向上支援 (72日)	巡回 (各生産者の課題改善) 計画打ち合わせ 2日×2人	巡回 (各生産者の課題改善) 灌水調査・土壌調査 4日×2人	巡回 (各生産者の課題改善) 三相分布調査 (採取) 4日×2人	巡回 (各生産者の課題改善) 三相分布調査 (採取) 4日×2人	巡回 (各生産者の課題改善) 三相分布調査 (採取) 4日×2人	巡回 (各生産者の課題改善) 三相分布調査 (分析) 4日×2人	巡回 (各生産者の課題改善) 三相分布調査 (分析) 4日×2人	巡回 (各生産者の課題改善) 三相分布調査 (分析) 4日×2人	巡回 (各生産者の課題改善) 4日×2人	巡回 (各生産者の課題改善) 4日×2人	巡回 (各生産者の課題改善) 4日×2人	巡回 (各生産者の課題改善) 4日×2人

	年度別成果
	(成果指標における定性的、定量的目標の達成状況に係る内容を記載する。)
令和2年度	<p>・「栽培技術の見える化による安定生産技術向上」では、耕種概要やかん水管理の記録・土壌水分などのほ場環境データを測定し、生育調査と併せて、熟練生産者の栽培状況を見える化した。</p> <p>・「病害虫防除及び基礎技術向上支援」では、JAの部会担当者と連携し、栽培上の課題(かん水状況、肥培管理等)と対策方法を生産者と検討して生育改善の取り組みを行った。また、土壌物理性の改善のために、他作物栽培による試験栽培の実施や適切な防除対策を実施するため、病害虫の対策資料を作成・配布した。</p> <p>・定量的目標での実績は、販売収量2.7t/10a (R2) となり、前年比同であった。夏期の長雨や梅雨明け後の高温など気象条件の変化に対応できず、収量に影響がでたと推測された。来年度は、個々の生産者の収量増加のために、巡回等を通じて課題改善を図っていく。</p>
令和〇年度	

(年度様式2) プロジェクト課題計画

令和3年度新規課題

課題No.	課題名 土地利用型農業法人の早期経営安定 (「中間管理事業」関連課題)		
計画期間	令和3年度～令和4年度		
対象名及び対象者数	農事組合法人おさとファーム (役員5名)		
課題の背景	<ul style="list-style-type: none"> 農事組合法人おさとファームは、令和元年9月に、組合員15名で設立し、経営面積はR2実績で水稲18ha、大豆2haである。R2年秋に小麦を19haは種している。 前身である小里営農組合の解散・法人設立に伴い、組合員の離脱や水稲部分の個別対応により、経営面積は従前の組織より減少している。 法人の経営エリアでは、鹿飼沼地区農地整備事業(H23～R6、受益面積383ha)が実施され、担い手に約7割を集積する計画だが、R1の実質の集積率は61%となっている。大区画化したことにより耕作を断念する農業者も現れており、今後、法人の経営面積が拡大する見込みである。 組合員15名のうち実際作業に出役している組合員は8名で、5名の理事の平均年齢は68歳で年齢が高く、早期に従業員や後継者の確保対策を講じる必要がある。 法人設立時に、中期経営計画を策定したが、その後修正、見直しは行っておらず、労働力の分配や機械の利用等、計画的な法人運営が実施されていない。また、会計方法や法人運営の仕組みが十分に機能していないため、賃金、作業料金の設定や労務管理等が曖昧になっている。法人として持続的な経営を行うためには、中長期計画の整理や法人運営のための基本的なスキルを習得していく必要がある。 法人の基幹作物である大豆や麦の栽培経験が少なく、今後経営を安定させていくためには、栽培技術の習得による収量の確保と、米-麦(大麦、小麦)-大豆の輪作体系の確立が必要である。 		
期待される対象の変化	<ul style="list-style-type: none"> 法人の経営計画が着実に実行され、持続的な経営が可能になる。 生産性の高い土地利用型作物生産が行われ、法人経営が安定する。 		
県実施方針上の関連項目			
地域基本方針上の関連項目			
担当チーム員	◎高橋真樹子 鹿野 弘 三上雄史 伊藤 愛 菅野 敦	担当班及び進行管理責任担当者	地域農業班
令和3年度	<p>成果指標</p> <p>定性的目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営計画策定に向けた検討が行われ、経営計画の策定が行われる。 大豆栽培の適切な栽培管理が実施され、収量が増加する。 <p>定量的数値目標</p> <p>策定計画数 R2年 1 → R3年 3 → R4年 3</p>		
活動指標	<p>定量的数値指標 (合計総現地活動日数 60日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人経営管理支援 28日 転作作物の生産安定支援 32日 		
関係機関の主な役割分担項目			
関連事業名と役割			

〈内部資料〉

※以下の部分は印刷製本しない内部資料とする。(計画承認のために農業振興課へは提出)

活動事項	月次活動計画											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
法人経営管理支援 高橋(真) 伊藤(愛) (28日)	法人会計管理支援(決算書作成)	法人会計勉強会・作業計画策定支援	作業計画策定支援	機械導入計画作成支援	作業計画策定支援	作業計画策定支援	資金計画作成支援	料金賃金管理支援	次年度経営計画策定支援	次年度支援計画打合せ	次年度経営計画査定支援	
転作作物の生産安定支援 三上 鹿野 菅野 (32日)	小麦栽培管理指導	小麦栽培管理指導 大豆ほ場準備支援	大豆は種指導 小麦刈取指導 品質調査	大豆は種指導 栽培管理指導	大豆栽培管理指導 小麦実績検討会	大豆栽培管理指導	大豆栽培管理指導	大豆刈取指導 品質調査 小麦は種指導	小麦栽培管理指導	小麦栽培管理指導	大豆実績検討会	次年度栽培打合せ
	1日×2人(2日)	2日×2人(4日)	1日×2人(2日)	1日×2人(2日)	1日×2人(2日)	1日×2人(2日)	1日×2人(2日)	1日×2人(2日)	2日×2人(4日)	2日×2人(4日)	1日×2人(2日)	
	1日×2人(2日)	2日×2人(4日)	2日×2人(4日)	1日×2人(2日)	2日×2人(4日)	1日×2人(2日)	1日×2人(2日)	2日×2人(4日)	1日×2人(2日)	1日×2人(2日)	1日×2人(2日)	1日×2人(2日)
(60日)	(4日)	(8日)	(6日)	(4日)	(6日)	(4日)	(4日)	(6日)	(6日)	(6日)	(4日)	(2日)

	年度別成果
	(成果指標における定性的、定量的目標の達成状況に係る内容を記載する。)
令和3年度	※実施した翌年度に記載する。
令和4年度	